

曾我観音

山 桑 を 歩 く

今月下旬、山桑(匠

嗟地区)医光院で曾我観音三十三年本御開帳が行われます。この像は聖観世音菩薩で『匠嗟郡誌』(大正10年刊)

に、「曾我兄弟の守り本尊をこの像の首に納めたことから、首籠もりの観音」と呼ばれたとあります。同書にはこの他、山桑村に移り住ん

だとされる鬼王家や虎御前など曾我兄弟の仇討ちに関する話も載っています。

曾我兄弟の仇討ちは、1192年(鎌倉時代)に現在の静岡県富士宮市で発生し、日本三大仇討ちの一つとされます。江戸時代になると、歌舞伎や浄瑠璃などで演じられ、全国的に知ら



医光院境内

れるようになったといえます。

旧八日市場市の歴史を調べていた時、1750年代に書かれた椿の海干拓などをまとめた史料の中に、鬼王家について書かれた興味深いものを目にしました。

「匠嗟郡生尾に鬼王家ゆかりの寺がある」という記述でした。正しくは山桑村ですが、「オイヲ」の地名と「オニオウ」とを結び付けたもので、これが曾我兄弟の墓(「写真右下」)に影響を与えたとも考えられます。曾我兄弟に関する墓所・祠や虎御前の伝承は全国的に点在するとされ、市内山桑医光院でもこれらがそろっており「曾我物」がこの地域にも伝わっていたのでしょうか。

曾我観音に関する「略縁起」の書かれた版木も残ることから、おそらく医光院参拝者に配られたのでしょう。内容は山桑村の起りから観音像の由来、そのご利益などです。医光院は寺名などから薬師如来を信仰する寺(薬師堂)(「写真左」)で、棟札などから1646(正保3)年ごろから諸堂、諸仏が整えられたことが知られます。

三十三年本御開帳は、文字通り三十三年に一度の行事で、前回は1989(平成元)年、本堂(「写真右上」)新築の年でもありました。

匠嗟市指定文化財でもある曾我観音を直接拝観でき、仏縁を結ぶ機会ともなるでしょう。

(市文化財審議会委員・依知川雅二)